

課長	課長補佐兼係長	主幹	係員

大河原町大規模事業評価委員会 第1回委員会

日時：令和6年7月19日（金）9時55分～12時05分

場所：大河原町役場2階 第一会議室

出欠：下記のとおり

No.	選考分野	団体名・役職	職	氏名	出欠
1	学識経験者	元宮城県建築住宅センター理事長	委員長	三部 佳英	出
2	学識経験者	橋本潤子公認会計士事務所代表	副委員長	橋本 潤子	出
3	学識経験者	東北大学大学院国際文化研究科教授	委員	青木 俊明	出
4	学識経験者	東北学院大学工学部環境建設工学科教授	委員	櫻井 一弥	出
5	学識経験者	宮城大学事業構想学群地域創生学類准教授	委員	佐々木 秀之	欠
6	一般公募	—	委員	中嶋 航太	出
7	一般公募	—	—	—	—

事務局：藤田秀明副町長

政策企画課吉野課長、小熊課長補佐、長谷川主幹

地域整備課小原課長、高橋課長補佐、佐々木技術主幹、株式会社建設技術研究所福田

開会

1. 開会のあいさつ（齋清志大河原町長）

まもなく梅雨明けですけれども、10年に一度の暑い夏という報道がありまして、懸念しているところです。本日は先生方にはお忙しい中ご出席をいただきまして、心より御礼を申し上げる次第です。ありがとうございます。

また、久しぶりのこの委員会でございます。これまで進めてきました、白石川右岸河川敷等整備事業の今後の展開について先生方にご意見をいただきたいというふうに考えているところです。この事業は平成29年度より宮城県とのコラボ事業として、スタートを切ったものでございまして、住民の声を反映させるような会議、あるいは都市計画マスタ

ープランの作成様々な議論の機会を経まして、「堤外地」、河川敷側ですね、堤防の川側ですけれども、サイクリングロード・ウォーキングロード、あるいはマウンテンバイクスパーク、ドッグラン、親水広場、芝生広場、そして今年の4月から正式オープンとなりました36ホール公認コースのパークゴルフ場が完成して、そして「おおがわら千本桜スポーツパーク」全長3キロ面積12ヘクタールの施設が完成したというところでございます。

今後、この事業は堤内地、田んぼ側に賑わい交流拠点施設を造る整備事業に移行してまいるところでございます。令和6年度、7年度に盛土工事を実施することで今年度予算も議会で満場一致で議決されておりまして、今後そこにどういった施設整備を進めていくかということで、モデルプランを示しながら、住民懇談会を先般終えたところでございます。

なかなか例えば、地方創生に絡めて、国のお金を使わしていただきながら事業展開を図るというようなことで、はたして成功に導けるのだろうかという問題もありまして、民間の力を存分に活用しながら施設整備を進めていくといった方向に舵を切ったところでございます。令和4年度に民間企業へのサウンディング調査を実施いたしまして、施設内容や活用方法を検討しながら、この結果を受けて翌年、令和5年度に国の補助事業として官民連携手法導入可能性調査を実施してもらいました。

これでまとまったものが、今日ご説明申し上げますモデルプランということになるわけでございます。改めてこの事業のコンセプトをお話しさせていただきますと、「千本桜を千年先へ、桜が繋ぐ交流とスポーツのにぎわいテラス」という位置づけにしております。今後川を活用した、例えばリバースポーツのような可能性等も含めて、白石川を水と桜のレクリエーション軸と位置づけながら仙南地域全体の広域連携の「要」、拠点となる施設組みを進めてまいりたいというふうに考えているところでございます。さらに、ぜひ一度見ていただければと思うんですけれども今日、曇りで蔵王が見えておりませんが、蔵王の景観、そしてきらめく白石川、そこににぎわい交流の広場が広がっていくということですね。

わがまちの特徴、例えば元気で長生き宮城県第1の町が大河原です。けれども健康寿命と平均寿命の差が不健康な期間ということで数値化されておりますけれども、それが最も男女とも短いのが実はこれ後で説明あるかもしれませんが、大河原ということで、そういう状況を継続しているところでございます。この様々に持つ絶景スポットも含めてですね、高いポテンシャル、我が町の特徴こういうものを生かしながら、さらには通年観光に繋がるような資源の掘り起こし、そういったことも意識しながら、今後の堤内地に造る賑わい交流拠点施設の整備を具体的に進めてまいりたいと考えているところでございます。

最近ちょっと様々な公表もありましたけれども、仙南はピーク時19万6,000人の人口がございました。どんどん減り続けて、まもなく4万人減少する状況になります。

つまり、我が町と蔵王町、村田町、川崎町及び七ヶ宿町が消えて無くなるくらいの人口

減少になりつつある。白石市は今年度3万1,000人を割り込んだそうです。そして角田市は、今日の新聞にもありましたが、2万7,000人を割り出したということで1年間に800人を超える、あるいは700人を超える人口減少の自治体も増えてきているところがございます。そういう中で我が町はちょっと違う状況にあるわけでございます。仙南の中心に位置して、その中心性、拠点性、あるいは利便性、こういったものを存分に生かしながら、“繋ぐ”、時代のキーワードかというふうには私は受けとめておりますけれども、地域の人を人と人を繋ぎ、人と地域を繋ぎ、地域と地域を繋いでいく。そういう役割が見られる町でありたい。そしてまた、そういう施設にこの白石川右岸河川敷等整備事業を仕上げたいと考えているところがございます。必ずや成功させなければならないという緊張感を常に持って、職員共々、ここまで事業の展開を図ってまいりました。今日具体的な説明をさせていただきますので、先生方のそれぞれの専門の御立場で貴重な御意見を賜ればと考えているところがございます。何とぞよろしくお願い申し上げます。

～出席者紹介～

2. 委員長・副委員長選任

三部佳英委員長・橋本潤子副委員長

3. 委員長のあいさつ（三部委員長）

先ほど申し上げましたが、県行政におきまして、この大規模事業評価に係る、県では政策評価だったり、施策評価だったり事業評価だったり3段階で仕組みを作るとき、私も担当として仕組み作りに関わりました。そして何件かの事業案件を対象にしながら、執行担当部局に説明をしていただきながら、外部の方々に審議してもらうということでした。今日は逆の立場になりますけれどもそういった経験を踏まえながら、展開できるかなというふうに思います。よろしくお願いいたします。

○大規模事業評価の概要

～事務局長谷川主幹による「大規模事業評価の概要・今後の流れ」の説明～

発言	内容
三部委員長	<p>先ほどの説明の中である程度理解できるかと思いますが、資料が送られてきた段階で私自身わかりにくかったのは、2回開催するということが前提になっているということ。</p> <p>先ほど町長の話もありましたように、今回の賑わい交流拠点の整備地については、もう既に用地買収を終えて造成工事が始まっているということで、この部分に着手する前に、案件として交流拠点の計画が評価対象の行う時期ではなかったかと思いますが、これは先ほどの説明のように、県の堤防との一体の事業ということで、対象外ということによ</p>

	しいのでしょうか。そのところをもう一度確認したい。
吉野政策企画課長	後ほど説明もありますが、その白石川の堤外地のところについてはその河川整備防災等も含めた河川整備の中で、町の課題等に一緒に取り組みながら整備を進めるということで、平成 29 年からスタートしているので、その部分に関しては今回大規模評価委員会の設置条例の中では対象外になりました。今回賑わい交流拠点施設の整備は町の単独事業となるので、こちらの整備に当たって御意見をいただくということの位置づけになると思います。
三部委員長	造成地場所が決定した後の整備計画についての審議が、我々の任務というふうには受け止めたいと思います。もう一つは 2 回開催について、前回の大河原中学校の時は 1 回で説明を受けてその日のうちにまとめました。 今回は 2 回ということで、先ほどあったように、アドバイザーの中の作業の進展の中で新たな資料等を踏まえながらもう 1 回開く、そのときに意見をまとめて答申するというようなことです。

4. 議事

1 大規模事業の説明

(白石川右岸河川敷等整備事業 (賑わい交流拠点施設整備及び管理運営))

～地域整備課：配布資料 1～3 を基に説明～

発言	内容
橋本副委員長	平成 29 年度から宮城県とのコラボ事業として第一段階の事業があったということですが、このコラボ事業の内容、県との分担や予算規模等を教えていただきたい。
地域整備課高橋課長補佐	内容としては、最初は雑木が多いような河川敷でした。川の流れの阻害防止と兼ねまして河川敷の雑木等々の撤去から始まり、サイクリング・ウォーキングロードの舗装、それから各施設の整備、各補助金等いただきながら整備してきました。 実際その工事内容で県に手伝わっていただいたようなところが多くありました。 河川敷の千本桜スポーツパークですが、先ほど紹介した全ての事業で、今までで 5 億円くらいかかっています。その中で県から工事していただいた分が大体 2 億 6,000 万円。だいたい半分ぐらい県でコラボ事業として手伝わっていただいたような形になります。 引き続き盛土を行っていますが、その土は今度は国の工事からいただいている分もあり、その土の分でコラボ事業が続いているところです。

	土の購入代金は、大体3億円から4億円ぐらいの金額となるものですが、それを全部いただいた形で整備する予定。
橋本副委員長	先ほどの話の通り、賑わい交流拠点施設は全体の事業から見ると同じ流れの中かと思っていたので、事業評価がどの時点で何を対象にするのかが気になっていました。今までのスポーツパークの整備については、多分金額として3億円はいかないというところで承知しました。具体的なAゾーン、Bゾーン、Cゾーンのそういったことについてはもう町の主導というか、やられたということですね。
高橋課長補佐	親水広場があります。白石川の水を入れて、子ども達が遊べる小川のようなものを作るといものがあります。そちらは県の主導でやっています。
三部委員長	もし差し支えなかったら、年度別の県・町の事業の内容、あるいは経費っていうのは出せますか。
高橋課長補佐	承知しました。
副町長	支障木の伐採の話がありました。実際に河川敷は、人が入れるような状況ではありませんでしたが、国の国土強靱化の事業が始まって、ゲリラ豪雨や河川の強化ということで、国が支障木を伐採した。しかし伐根をどうするかということもあり、これも県に伐根していただきました。さらに抜根した後に荒整地という形でフラットにいただいた。そういったことはもうコラボ事業の中として、次に“町もこういうことをする”というアイデアを出していたので、県もそういった形でコラボ事業として理解してくれたというふうに思います。県も2億円～3億円使ったと思います。サイクリングロード2.7kmの話もありましたが、舗装は全部県でやってくれました。ラインは町で引いた部分もありますが、県の力は非常に大きいというふうに思っています。 今回の事業は、河川敷も含めて堤内地までも一つのパークと捉えていましたので、今回の大規模事業評価がそういった形になったということでご理解いただきます。
高橋課長補佐	一つ訂正させていただきます。先ほどの補助金額について、4億7,000万円ほどが町の負担金、町が出した分。そこに県の工事が2億6,000万円で、合計すると7億3,000万円です。
副町長	パークゴルフは1億5,000万円～6,000万円かかっていますが、3,800万円ぐらい補助金をもらっています。それからMTBスパーク、マウンテンバイクコースは2,200万円かかっています。これもガバメントクラウドファンディングを実施しました。初めて取り組みましたが、最初300万円を目標にしていたのですが、あっという間に500万円になりました。

	て、最終的には 625 万円の金額を集めることができました。寄付者の方には感謝を申し上げます。いろいろ経費はかかりますが、財源も模索しながら取り組んできたことをご理解いただきたい。
櫻井委員	利用料金について、今まで出来上がっているところと、それから今回対象になっている賑わい交流拠点施設での想定について教えていただきたい。
高橋課長補佐	出来上がっている河川敷について、MTB コースの方は、設備は無料です。レンタサイクルだけ大人用が、1 時間 200 円、子ども用が 1 時間 100 円です。ドッグランは無料になっています。芝生広場の方もそのまま開放しているので無料で使える形です。パークゴルフ場が今年度から有料になり、1 日 500 円という形になりました。今度の賑わい交流拠点施設は、スケボーパーク、3 x 3、フットサルコート、これらはそれぞれ有料になるんですけども、近隣市町村等々の同等の施設と金額をすり合わせて同じような料金でいただくような形で考えており、大体スケボーパークで 500 円前後。フットサル場、3 x 3 も同じような形になりますが、貸切になるとまた料金が変わってくるので、例えば 1 時間 7,000~8,000 円。そういう想定ができますが、まだ精確には、金額の設定はありません。
櫻井委員	そうすると、多目的広場、遊具広場は無料になりますか。
高橋課長補佐	無料になります。スケボーパークも、水が入っていると使えないので…。
櫻井委員	どれぐらい水が入ってない時期があるのでしょうか。
高橋課長補佐	正確にはわかりませんが、同じような施設を視察に行ったところ、雨の日の後で溜まってしまい、その後溜まっている水が出てきたり、山からの絞り水などもあるため、通常の雨が降って 2、3 日はやっぱり水がはけません。それから土が残ってしまうので、掃除などフォローしながら使ってもらえるような形になります。そのため、スケボーでの利用だけではなく土が抜けるなどがあっても、大丈夫なものはその施設の使い方も検討していきます。
三部委員長	関連して、今の料金というのは、事業者へのアンケートなどである程度考え方を把握した上での維持管理運営費になっていると考えてよろしいですか。
高橋課長補佐	はい。同じような近隣施設の方を精査しまして、同じように算出して。実際の料金設定はこれから募集に向けて決めていきます。
青木委員	2 点ほどお伺いします。まず一つは、先ほどの橋本委員の意見と少し重なるかと思いますが、運営費が約 1.2 億円かかるということですが、

	<p>実際の町の負担額としては 1.2 億円丸々予定されているのか、若干それより少ない額を予定されているのかという点。仮に 1.2 億円だとすると 1.2 億円の負担が町の財政にとってどれぐらい重いものなのか。逆に全然問題ないということもあるでしょうが、まず実際の運営費の負担額とその負担額が町の財政においてどの程度の重さなのかを教えてください。</p> <p>もう 1 点は、資料がなければ構いませんが、利用者数の予測結果をお示しいただきたい。できれば月別の予測数をお示しいただけると非常にありがたい。以上 2 点お願いします。</p>
高橋課長補佐	<p>事業費の算定、維持管理費の算定で 1.2 億円ですが、施設的になかなか厳しいような金額になっています。実際に 12 ヘクタールと広大なため、見積もりも厳しいところもありましたが、今後全体の維持管理というよりは施設を中心にした維持管理、例えば、MTB パークとかドッグラン、パークゴルフ場に限った維持管理という形でもう一度精査する形を考えています。実際 1.2 億円というのは財政にどのぐらい負担があるかは…。</p>
政策企画課長	<p>町の財政状況、全体のところから申し上げますと、やはり少子高齢化に伴って全国的な傾向と同じように、経常経費というか、そういったところをかさんできました。ただ税収面から申し上げますと、自主財源の比率が比較的高い方ではあります。特に固定資産税などについては、通常評価替えで下がるどころ、大河原町だけが上がっています。そういったところで税収というのは堅調な形で進んでいますので、他の事業の見直しは当然必要になりますが、ある程度担保できるのではないかと考えています。</p>
青木委員	<p>そうすると税収に対する意味合いとしては、そんなに大きな負担になるわけではない、むしろもうあまり問題ないだろうと。</p>
政策企画課長	<p>見通し金額的には大きいですが、今後も捻出できるだろうとは考えています。</p>
青木委員	<p>承知しました。ちなみに最初は説明で 1.2 億円では厳しいとありましたが、“厳しい” というのはどういう意味であったのでしょうか。</p>
高橋課長補佐	<p>やはり、他の町施設に比べて維持管理費が高くなっている形です。住民懇談会に示したときに、金額について町民の方から声をいただいています。ランニングコスト的がかかっていることを考えると、担当課としてももう少し絞って行きたいという意図がありました。</p>
青木委員	<p>承知しました。</p>
三部委員長	<p>今の施設利用者からの使用料を有料にいただいた場合の額は、1.2</p>

	億円には入っていないのでしょうか。
高橋課長補佐	入っていません。
三部委員長	もう一つ。利用者数というのは、長期総合計画などに「パークゴルフ場 5万人」とか書いてあったような気がしますが。
小原地域整備課長	町としては全体で年間3万人ぐらいにはご利用いただきたいというふうな算定をしているところですが、詳細についてははっきりしていません。ただ今回の料金設定をする上で、フットサルコートは年間6,000人、スケボーパークについて年間8,000人、バスケットボールについて年間6,000人、デイキャンプ場について年間10,000人というところを大体想定して、算定をしているところです。なお、この数字についても今後料金の設定等々含めて精査していく必要がある数字と考えています。
三部委員長	それらの数値は、委員の方々に次の会議の前あたりまでに公開できますか。
地域整備課長	検討します。
三部委員長	お金のことで、先ほどの社会資本整備交付金の可能性と額の見通しはいかがでしょうか。
高橋課長補佐	協議を続けているところですが、コラボ事業でスタートを切ってしまっているの…。通常ですと施行前に個別協議するのが通常の流れでありますので、まずそこを通れるか。千本桜スポーツパークは都市公園として供用していて、住民1人当たりの公園面積が10平米超えている形になっています。つまり、交付金で目指している数値をクリア（超過）してしまっているの、該当しない形になっています。ただし、その千本桜スポーツパークは賑わい交流拠点施設ができて初めて完成なので、無かったものとして計算させてもらえないかということ、県と国に協議中であります。もしそこが通れば50%の補助率で…。
三部委員長	何億円かいただけると。
高橋課長補佐	その通りです。それができるかどうかという協議をして、これから県の方に正式に聞いていただくところです。1、2ヶ月でその辺の答えが出るかと。
橋本副委員長	1.2億円の維持管理費ですが、15年という想定で計算になっていますが、その後、15年経った段階で施設がどういう状況なののでしょうか。大規模改修なりが必要なのでしょうか。その辺は15年ですっぱり終わりという事業ではないと思うので、その先の見通しをお示しいただければと。
高橋課長補佐	今のところは指定管理期間15年で企業に問合せをしています。そして

	<p>おっしゃる通り、その後も指定管理は続きますが、指定管理が終わりに近づいた時点で、もう一度その先の指定管理のための積算や大規模改修計画を立てます。今のところその先の指定管理業者のところまでは決めていません。</p>
橋本副委員長	<p>大規模改修だと何年ごとにどの程度やるかというところで金額もかさむと思うので、1.2億円の範囲でというのは無理ではないかと何となく思っていました。</p>
高橋課長補佐	<p>賑わい交流拠点施設のスケボーパークを、例えばコンクリートで施工した場合は20年ぐらいもつと言われていています。しかし営業中に補修が必要になったり、フットサルコート的人工芝も張り替えが必要になってきます。その辺の施設内容が決まってくる時点で、実際どのぐらいのスパンでの大規模な改修が必要か確認しながら金額等々調べていきます。</p>
中嶋委員	<p>私の方からは水害のリスクについてお伺いしたい。自己評価調書の9ページ、河川に近い施設であり浸水のリスクが想定されるというのが記載されています。水害のときの浸水というのは、どの程度のものなのかというのがわかっていれば教えていただきたい。</p>
高橋課長補佐	<p>この地域は浸水想定区域内に入っていて、元々が浸水するような地域になっています。何cm浸水かは手元にデータはありませんが、実際は盛土した部分は高くなっていて、堤防と同じ高さなので問題ないと思います。実際営業を始めたときのスポーツ施設の被害や、そこに建っているトイレ等の建物への被害が考えられます。当然、雨が強いときや川が氾濫しそうなときは、施設の方は閉めて利用者には避難していただくのが当然の対応です。その他にも管理業者とのリスク分担というか、実際に被害を受けたときにどっちがどのぐらい直すのか、どういう負担をするのか、大雨が降ったときの対応等について計画していきます。</p>
地域整備課長	<p>追加でお話しますと、パークゴルフ場などを整備している部分は、高水敷、元々は川の中の施設になるので、その辺については大規模な大雨が降ったときには水があがるだろうという想定をしています。ただ近年だと令和元年台風、そのときに上がっていますが、その後の雨等では上がっていないところです。白石川そのものについても浚渫と整備の方も進んでいて、なかなか上がらないような想定はしているところ。</p> <p>なお、大規模災害の際は都市公園にも指定しているので、その辺については、補助金等も使いながら復旧をしたいというふうに考えています。ちょっと上がったぐらいなら、水洗いレベルでの整備で対応できるのではないかと考えています。</p>

三部委員長	<p>拠点の方は盛土するから高い部分はOKですが、前回いただいた防災マップによると、先ほどの調整池の部分は当然2、3mぐらいの浸水記載があります。そういったリスクはあるということでしょう。</p>
青木委員	<p>仮に1.2億円の負担が大したことないとしても、利用者が少ないと何で作ったんだという話になりかねません。そういう意味では、次回で結構ですが、利用者の予測方法について詳細にご説明いただきたい。</p> <p>ざっと周りを見ても、パークゴルフ場にしても、他の近隣の市町村もあるし、サイクリングに関して言えば、名取市もあります。ある程度住み分け・差別化を図られているとは思いますが、特にアーバンスポーツはなかなかやる場所がない状況で、パリオリンピックのスケートボード代表の女子が仙台市出身でタイミング的に非常にいいだろうと思います。とはいえ競技人口は多くはないので、使われてなんぼというのをきちっと町の方にもお示ししていくべきでないかと思うので、その辺の利用者予測が甘めじゃないというのを説明していただいた方がいいと思います。次回できればそこをお願いします。</p> <p>それから、利用者予測とも関わるが、例えば、私は仙台市に西の方に住んでいますが、東根市、富谷市、大和町とかは公園など子ども用の遊ぶ施設というのがかなり賑わっています。当然富谷市や大和町、東根市だけの人口ではそれをカバーできないので、仙台市から交流人口、引き寄せている面があるかと思っています。そういった仙台市も含めて、いかに人を惹きつけるか。町内だけで完結するのはなかなか難しいと思います。周辺で人口が多いのは仙台市なので、いかに仙台市から人を引っ張ってこられるかという戦略みたいなものがあれば教えていただきたい。</p>
高橋課長補佐	<p>集客性の向上ということで民間調査のアンケートを行ったときも、ここにしかないような施設を作れば、集客があって、利用料も上るだろうというような考えが示されているところ。しかし一方で、例えばスケボーパークをここら辺にないぐらいのパークにすると、なかなか初心者の方とか町民の方が使いにくいとか、利用料が上がってしまうというような懸念材料があり、どのレベルでやるかが難しいところだというふうに考えています。</p> <p>例えば遊具も大きいもの作って有料設定したらどうだ、という話も出ているが、実際有料だから遊べないとか、子どもが来ても遊べないっていうのは町の施設としていかなものか。その辺はどこで割り切っていくかというのを、今後募集要項を作る中で精査していきたい。</p>
青木委員	<p>おそらく今、この交流拠点施設はパーク全体の中での話だと思うんで</p>

	<p>すけれど、そこだけにとどまらないで、例えば仙台市から来ようと思うと、仙台市から来て半日、時間を使いましたと。何か他にうまく時間を使って1日で楽しんで帰るっていう、パークだけじゃなく、それ以外の施設ともうまく連携をして、1日楽しめるような地域という位置付けにしないとなかなか来てもらえないと思う。だからこのパークの中だけで集客方法を考えるのではなく、その他の観光資源ともうまく組み合わせた集客方法というのをお考えいただいて、プランのどこかに位置付けていけるといいのではないかと思います。</p>
副町長	<p>結局大河原町だけで済ませるのではなく、交流人口・関係人口を創出していきたいというのはずっと思っていて、説明にもありましたが、スポーツを活用したWell-beingなまちづくりという一つのコンセプトもあります。先日、リガーレ仙台と連携協定を結びましたが、それは仙台に多くあるプロスポーツを活用したい。つまりこちらに来ていただいて町民・近隣市町の方が集まっていたら、そしてそこで何か活用していただきたい。それがまちの元気にも繋がるし、そういったまちづくりをしてみたいというふうに思っています。ですので賑わい拠点施設を中心として、また他に「はねっこアリーナ」の施設もあるので、そういったことも含めて、大河原全体でスポーツを活用したWell-beingなまちづくりしていきたいというのが、一つのコンセプトとしてあります。</p>
三部委員長	<p>町長からの話にもありました、仙南の中で隣接するところ、柴田町は大学があります。角田市や白石市など人口が減っている中で、それぞれの市町の子ども達を含めて、単独ではなかなかできないところを大河原町が担うという話も強いかと思います、反応はどうでしょうか。</p>
副町長	<p>私も毎月のように、大河原町と近隣の2市7町の人口をチェックしていますが、やはり角田市・白石市の人口の減は多い。年に1,000人を超えるような、あるいは900人を超えるような状況で、最近消滅可能性自治体という公表もありましたが、残念ながら柴田町と大河原町を除いて、全部消滅可能性自治体となりまして、川崎町は非常に酷いような状況の公表もありました。それぐらい人口減少は止まらない。残念ながら大河原町も人口減少のトレンドになっている状況。何しろ子どもが生まれません。こういった中で、例えば丸森町も角田市もいろいろ定住、人口対策をさまざまやっているが、パイの奪い合いでしかない。大河原町はそれよりも、“選ばれるまち”になるべきだというふうに思う。子育てにしる、健康づくりにしる、“こういったまちだよ、こういったことができるようになるね”といったことをPRした方が非常に良い、選ばれるまちになるだろうと思っています。一つは近隣2市7町</p>

	<p>の動向・見方も確かに、“大河原町はいいよね”という評価はあるようだ。我々も、自らのまちのことをあまり強く言うようなことはしていないが、大河原町が廃れたのでは、多分仙南はもっと廃れる。つまり町長が言う中心性・拠点性を持つ大河原町が、ある程度引っ張っていくようなことをしなければならないという思いは、町長を初め、職員もそれなりに思っている部分がある。是非こういった施設が、そういったことに結びつく形になればと。</p>
--	--

2 大規模事業に対する質疑応答

発言	内容
櫻井委員	<p>今の段階で自己評価書の6ページ、事業手法別の金額の負担を書いてありますが、今の段階ではまだBTO、DBOかを決めてないという話ですが、これを拝見すると、事業費そのものの見込みというのはほとんど立っていて、起債をされてやるってということだとすると、BTOにする理由があんまりないんじゃないかっていう話でもありましたけど、金利の発生とかがあるので予算立ての見込みがもうついているのであれば、BTOよりDBOのほうが圧倒的にやりやすいだろう。大河原町としても、事業者としても多分そう。PFI事業の参画のときに意外と支障になっているのは、そのSPCの設立についてかなりハードルが高いという話をよく聞くので、DBOなら別にそれは必要ないので、これで決めていいのではないかと思う。</p> <p>PFIの基本手法・考え方は、大きいお金を用意するのが大変だというときに使う。トータルとしては高くなるけども、分割なら何とかなるというのが基本コンセプトなので、そういう状況じゃなければ、DBOで全く問題ないと思います。</p>
株式会社建設技術研究所福田	<p>おっしゃるように、今回の民間事業者からの意見の中でもSPCの設立にあたって構成企業同士でなかなか合意が得られないとか、合意を得るのに時間がかかる等意見をいただきます。民間事業者からDBOの方がより望ましいというご意見もいただいています。</p> <p>他方で資金調達面では問題ありませんが、私ども他でお手伝いしているところで、なかなかDBOだとPFIであればPFI法というところが明確ですが、DBOですと契約が分かれたりというところで、そこが課題となるようなケースもあります。そういう意味で資金調達面ではBTOで、その法的な根拠の明確性ということではPFIが(特徴的)。あとその事業契約一本でできるというところ、契約形態が明確というところもあるのでいろいろ特質があるというのは、大河原町とも協議させて</p>

	<p>いただいて、総合的に判断したいです。BTO、PFI をする理由がないというところではおっしゃる通りです。</p>
青木委員	<p>法的な裏付けがあるっていうのは当然 PFI。だから BTO にしたときのその契約形態を、慎重に他の事例とか見ながらやるっていうことが必要になるのでしょう。そこもクリアできれば、そっちの方が多分事業者側はやりやすい。</p>
副町長	<p>BTO の話があったが、既に私のところでは学校給食センターが、DBO 方式でやっています。何年か前ですが、契約の話があったが、物価高とかで人件費の値上がりがあり、協議する回数が 1 番ありました。そういった面ではいっぱいアンテナを張らなければならないと思っていました。けれども職員がやるよりは、そういったノウハウを持ったスキルの高い、優秀な方に任せた方が絶対いいと思います。職員も 3 年に 1 回異動するので、そうなれば、サービスの低下になるかもしれないし、そういう意味では本当に PPP の取り組みというのは大切だと。</p>
青木委員	<p>少しご紹介というか、いくつかのスポーツ系の PFI 事業をやっているところを見たことがあります。仙台市の松森のところとか、かなり早い段階でやっていて、PFI 事業 1 回終わって、再募集して始まってですが。そのときいろいろ話を伺いましたが、15 年とかそういう長期でやることのメリットが、人を育てられることがすごく大きいとおっしゃっていました。15 年間そこに関わるスタッフとかがいるので、非常に手慣れてくるとか、サービスの向上とかに関しては、メリットとして考えられるということでした。副町長がおっしゃるように、民間でやっていただくにふさわしい施設ではないかなと思います。</p>
三部委員長	<p>いろんな課題もあるでしょうし、いわゆるメリットも。</p>
橋本副委員長	<p>先ほど、選ばれるまちにという話がありましたが、町の中だけでもそれは住民参加というのが私は大切というかポイントかと思っています。例えばコラボ事業でこの河川敷賑わいプロジェクトチームを立ち上げ、住民も参加してという話でしたが、具体的に何名ぐらいのチームで、住民が何人ぐらいいらっしまったのか教えていただきたい。</p>
副町長	<p>資料 1 の 1 ページ、河川敷等整備事業検討委員会、河川敷賑わいプロジェクトチームということで、計画の前段階で様々な意見を聴取した。まず河川敷等整備事業検討会については全て民間で、これは公募と、あるいは有識者という形の中で委員になっていただいた。人数につきましては後ほど。プロジェクトチームについては、職員で任せていただいた。</p> <p>いろいろな取り組みはありましたが、最初に MTB S-PARK を何とかしよ</p>

	うというふうに思って、井手川直樹さんというプロライダーの方と知り合いになることができ、その方にもいろいろ入っていただいて職員のプロジェクトチームを立ち上げ、そこからいろいろ取り組んでいこうという形で考えたところです。そういったことを踏まえて基本計画が出来上がり、本来はもっと町民の方の参加が必要だったかもしれませんが、何もない段階で、皆にどうですかと問いかけるよりは、少し案を出してお示しした方が話もしやすいのかなというふうには思います。
橋本副委員長	なかなか、大勢の住民を巻き込んでのというのは、そこをマネージするのが非常に手間暇かかって大変だと思うので、無理もないかなという気もします。けれどもただ、ああしたい、こうしたいというような話から持ってくるには一番いいパターンというか、道路を作る橋をかけるとかという話ではなくて、多分そういうことで住民が各年代の方が入ってやるということは、やはり町に対する愛着というのも増すし、若い人だったら、学校卒業したら戻ってこようかとか、そういう人口増とは言わないまでも減を少しでも止める手立てになるのかなと。
副町長	協働のまちづくりというのが、国の政策ではないですけども、住民主体のまちづくりということで、他のほとんどの自治体で取り組んできました。本町においても住民の参加、参画、協働という形の中で取り組んできたところで、そういった視点はこれからも忘れない。
三部委員長	関連してモニターアンケートの対象者として町内のスポーツ、マウンテンバイクなりバスケットなりやっている社会人、リタイアした人も含めそういう方の意向・考え方も聴いているのでしょうか。
高橋課長補佐	繋がっているのは、スケボーの愛好会というものがあまして、スケーターの方がちょっとスクールとかをやっていて、教えている方がいらっしやって、その方の意見とか。あとはサッカーの方で、公園を使ってスクールを開いている団体があまして、そのような方々、自転車の方々も、私達もマウンテンバイク、S-PARKの方を管理している中で、自転車関連の人と繋がっているんで、その辺で意見等々をいただいている。
三部委員長	こういうスポーツ施設も含めて、町内の人材というか、担い手に参画していただければ町の政策方針と合致するんだと思う。
青木委員	住民参加のことについてお伺いしたい。先ほどの橋本委員からの質問に対する回答の中で、地域への愛着が大事だとあったと思いますが、実際に愛着というのが定住意向であったり、Uターン移行に対して非常に重要だということが調査結果として言われています。どうしたら愛

	<p>着が湧いてくるかという、我が事だと考えていただけるかどうか(が必要)。我が事とを考えていただけるかどうかという、自分の意見がきちんと反映されている(が必要)。町が意見を汲み取ってくれているというふうに感じられるかどうかというのは、いろんな調査でわかっております。そうすると、今回パブリックコメントというのがありますが、パブリックコメントをしたときに、それをどう活用したかを町がどう町民の方々に返すか(が重要)。ホームページで情報公開するのか、かわら版みたいなものを作って配布するのか、いろんなやり方があるかと思いますが、多分議員さんだけに任せると、なかなか情報が伝わりにくいと思います。</p> <p>住民の方の意見を吸い上げた後、それをどう生かしたという周知の仕方について何かお考えがあれば教えていただけないか。</p>
高橋課長補佐	<p>今回もまずは住民懇談会、あとはホームページで全町民にチラシ等々出しまして、アンケートやっています。意見を吸い上げたところで先ほどの資料を結果として出して、それを今度、どういったものに反映されたか、募集要項が、それによってどう変化したかというのを、広報紙等々で皆さんにお知らせしながら、先ほど言っていた通り愛着を持って、そんな形をとらせていただきたい。</p> <p>募集要項を作っていくという関係では、最終的に民間の方から(アイデアを)いただく形になるので、その辺のすり合わせが入ると難しくなって取り入れられないと思うが、その要望を全然参考にしなかったという結果にはならないように考えています。</p>
三部委員長	この6月に開催された懇談会は金ヶ瀬で行われています。町内全体を対象にしてか。
高橋課長補佐	町役場と金ヶ瀬公民館の2箇所です。
三部委員長	評価項目にあります、リスクというか、防災の備蓄倉庫、これは金ヶ瀬を対象にしているのでしょうか。
高橋課長補佐	<p>周辺地域の方の一時的な避難場所として捉えているところで、例えば川が氾濫しそうなときに川のそばに行くということは考えていません。例えば震災に遭ったときも、家に入れなくて公園に避難したり店舗の駐車場に避難した方は多かったです。それで一時避難所として使ってもらうために、人が交流拠点施設の上大谷地区というところが、上谷地区の方も一時避難場所として、建物もありますので、避難場所に来たときに、例えば使う備蓄品とかそういったものを保管しておくとか、いろんなものを町内全体とか金ヶ瀬全部というような範囲ではなくて、あくまで地域限定したような形で防災備蓄倉庫を出しています。</p>

三部委員長	その計画もあわせて検討していくということになるようで。 もう一つ、パークゴルフ場、ドッグラン、今のマウンテンバイクといったところに、全体を繋ぐ道路というのは作らないのでしょうか。
高橋課長補佐	実際、河川敷なのでなかなか道路を作れない状態です。賑わい交流拠点施設に車を停めて、そこから拠点にして行ってもらえるような形。もしくは、レンタサイクルを使って施設まで移動してもらえる形かと。ただ、パークゴルフ場が遠いので、ゴルフ場の専用の駐車場は作らせていただきました。ドッグラン、芝生広場等は賑わい交流拠点施設を拠点にする形で。
三部委員長	堤防下の道路、今後舗装されるだろうけれども、片側1車線しかない。すれ違いも難しいような感じがする。踏切を渡ってくるところもある。スポーツだけではなくて、桜を見に仙台市などからいらっしゃる方々のためのアプローチの検討…お金がかかりますが、堤防のところを広げて2車線程度とか、いろいろ検討が必要かなと現地で思いました。
高橋課長補佐	花火大会ともだんだん賑わい交流拠点施設の近くであげるようになってきて、将来的にはお祭りとかイベントも施設の方で行うことになるのではと予想して、大型バスの駐車・進入というのは考慮しながら道路幅・駐車場は検討しています。あとは河川側のアクセスが便利になるとかなり良いと思います。
三部委員長	川のそばにあります。水を利用した釣りとか、カヌーとかのあたりは計画していないのでしょうか。
高橋課長補佐	リバースポーツの方も推進してほしいという意見もあり、最近では SUP とか、要は乗り降りできる場所というの、あとカヌーとかも検討しているところ。今は降りるところはなくて、来月に尾形橋のそばの河川敷の方で、リバースポーツのイベントもやりますが、賑わい交流拠点施設の前の千本桜スポーツパークの前から、そういうリバースポーツができるような施設も今後考えていきたい。先ほどもありました通り、賑わい交流拠点施設だけではなくてほかの施設も考えています。
橋本副委員長	一目千本桜について、現在の桜まつり会場付近の桜並木が樹齢100年を超えてということで、この大河原桜ライン2.7kmに植樹されたという話を伺いましたが、桜まつり会場付近以外のところは樹齢はどうなのでしょう。全長8kmぐらいというふうに聞いているのですが。
副町長	一目千本桜の千本という形になるかと思いますが、昨年植樹100年、つまり100年経っていますが、その中で残ってるのが多分、300本とか400本ぐらい。そこから補植か何かをしてきたと思います。今回土手・河川敷に桜があります。あれは平成27年に町民の力も借りながら、200

	<p>本くらい植えたものです。今、町には「大河原紅桜」と「おおがわら千本桜」、それがパークゴルフ場の向かいにある駐車場に少し植樹していますが、実は大河原町に桜の樹木医がいて、大河原町はその方に委嘱をして、桜の管理をしてもらっている。その方が新しい品種「大河原紅桜」と「おおがわら千年桜」を開発しました。</p> <p>その方も自分の庭にそういった桜がいっぱいあるみたいで、それを今度は町が土地を用意して、新たな桜の改良であったり、新たな桜の名所であったり、そういったことは、例えば（今の）桜が枯れたとしても、新しい桜をまた次に繋げたい、桜は大事にしたいと思っています。</p>
橋本副委員長	計画的になるべく現状を維持する形でできればと。
副町長	土手に桜は植えられないことになっているので、白石川堤の千本桜が倒れたり枯れてしまえば、多分それで終わってしまう。それで終わらないような形の中で、新しいところにまた新しい名所ができることを考えてということです。

4. 閉会（橋本副委員長挨拶）

久しぶりの委員会でしたけれども、活発な意見交換ができたのかなと思います。今まだ中間段階ということで、11月に向けてですね、またよろしくお願ひしたいと思ひます。今日はどうもありがとうございました。